［編集・発行］鹿児島県奄美パーク
鹿児島県大島郡笠利町節田1834
電話（0997）55－2333
FAX（0997）55－2612
http://www.amamipark.com/

Vol. 6
2005　8月

鹿児島県
奄美パークだより

奄美の郷企画事業
田中一村記念美術館企画事業
奄美パーク応援隊
わきゃ島自慢
田中一村記念美術館展示リスト
奄美パークからのお知らせ

喜界島

俊寛座像（湾）

石垣（阿伝）

奄美の郷企画事業

文化講演会

平成16年9月12日に女流講談師の神田紅さんを招いて、文化講演会を開催しました。オープニングでは、中村瑞希さんと吉原まりかさんによります「朝花節」を披露。

神田さんは「大声と笑いで生きる明日への活力」をテーマに講談し、巧みな話芸で観客を魅了しました。合間には観客を舞台に誘い、会場は終始笑いの渦に包まれました。

また、宮崎園長とのトークショーの中で、講談の魅力を「どんなことでも講談で語れてしまう面白さ」と説明。「いずれは田中一村など、奄美を題材にした演目にも挑戦したい」と語っていました。

10月ライブステージ

平成16年10月17日に吹奏楽団・吹奏楽部のジョイントコンサートを開催しました。名瀬市を中心に活動しているアマービレ吹奏楽団や地元笠利町立赤木名・笠利両中学校吹奏楽部、新民謡の泉清次さんと西美智子さんの3団体、2個人が出演いたしました。吹奏楽団によるビートルズやディズニーメドレー、中学生はポップスなどを演奏しました。

また今回は、初の試みで吹奏楽による演奏で新民謡を披露し、来館者は楽しいひとときを過ごしました。

12月ライブステージ

平成16年12月5日に笠龍地区民謡保存協会の皆さんによる、12月のライブステージ「第2回奄美島唄（かさん唄）への誘い」を開催しました。笠利町や龍郷町の唄い手でつくる同保存会の発表の場として昨年に引続いての出演で、若手からベテランまでが自慢の唄を披露しました。

また、地元宇宿小学校児童による「稲すり踊り」が奄美パーク初登場。3年生以上の児童が練習の成果を披露し、花を添えました。

第24回WiPの日公開シンポジウム

平成16年10月24日に第24回WiPの日公開シンポジウム「言葉の牢獄ー方言からの再出発」を開催しました。WiP（ライターズ・イン・プリズン）とは言論活動等で投獄された作家のことで、国際ペンクラブではそれらの人々を支援するため、毎年10月か11月に活動を行っており、日本ペンクラブWiP委員会でも国際ペンクラブに呼応して、毎年10月にシンポジウムを開催しており、今回は奄美での開催となりました。

シンポジウムは、「言葉の牢獄ー方言からの再出発」と題し、宮崎緑奄美パーク園長がコーディネーターを務め、西木正明氏、下重暁子氏、吉岡忍氏をパネリストに、方言の良さ、奥深さについて議論が交わされました。

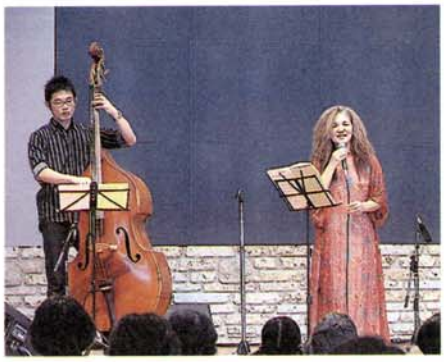
また、シンポジウムの途中に奄美を代表する唄者である築地俊造さんが、島唄を披露しました。

フユウンメコンサート

平成16年12月12日に全国的に音楽活動を展開している歌手藤あけみさんのライブを開催しました。

オープニングは、名瀬市のライブハウスなどで活動しているアマンジャブの皆さんが、アフリカの民俗楽器ジャンベを使った個性的な音楽を披露しました。

続いて、藤あけみさんが、伊地知元子さんの伴奏で奄美各地の子守歌メロディーをしっとりと歌いあげ、締めくくりは藤さんの長男・宇都良太郎さんのベースと岩崎文紀さんのサックスも加わって、クリスマスソングのセッションで観客の皆さんは、じっくりと藤さんの透き通る声に聞き入っていました。



初春唄アシビ

平成17年1月4日に新春を飾る恒例の「初春唄アシビ」を開催しました。

立ち見が出るほど大勢の観客が詰めかけた中、前田和郎さんが「浜千鳥の歌」で歌い始め、一条流紫寿音会による日本舞踊をはさんで、当原ミツヨさん、石原久子さん、坪山豊さんなどの島唄に続いて、笠利町の節田マンカイ保存会の皆さんによる正月マンカイで締めくくり、年明けにふさわしい賑やかなイベントとなりました。

1月ライブステージ

平成17年1月23日に、琴城流大正琴喜界・瀬戸内琴友会の皆様による大正琴初弾会を開催しました。喜界琴友会は昭和62年に、瀬戸内琴友会は平成4年にそれぞれ結成されており、大正琴を総勢55名が奏で新春にふさわしいステージになりました。2部では、内山令子さん、吉山智佐子さん、辰島志津子さんが日本舞踊を平成16年度鹿児島県民謡王座決定戦青年の部で優賞した永志保さんが島唄を披露し、観客を魅了しました。

2月ライブステージ

平成17年2月20日に、若手唄者の牧岡奈美さんや、新民謡の七色会の皆さんによる、2月のライブステージを開催しました。

オープニングでは、牧岡奈美さんが、『朝花節』、『くるだんど節』、『ワイド節』と歌い、会場全体が聞き入っていました。

次に、福祉施設等を訪ねる慰問公演を中心に、新民謡や歌謡曲など幅広く活動している七色会のメンバーが、自慢の歌声を披露。合間には、新民謡に合わせたフラダンスも披露され、訪れた来演者は多彩な奄美芸能を満喫していました。

春まつり

春間近な奄美をアピールする目的で平成17年2月27日、3月6日に恒例の「春まつり」を開催しました。27日は、「島々の響演」と題し、オープニングに地元大島北高校太鼓部による勇壮な太鼓の演奏をはじめ、住用村川内集落と徳之島町手々集落に伝わる伝統行事や民謡日本一の澤愛香さんによる島唄など多彩な内容で盛大に行われました。

続いて3月6日には、出演者の9割が女性で占める「サンガツサンチ」。ほとんどが女性ということで、華やかに行われました。

3月ライブステージ

平成17年3月13日に「津軽民謡・島唄の響演」と題して3月ライブステージを開催しました。今回は北と南の文化、民謡の違いや共通点を楽しんでもらうため、岩手県から津軽民謡歌手の漆原栄美子さん、津軽三味線奏者の黒沢博幸さん、奄美からは築地俊造さん、中村瑞希さんを招いて開催しました。津軽三味線と奄美のサンシンの共演、漆原さんが島唄を唄い、築地さんが津軽民謡を披露する等趣向を凝らしたプログラムもあり、プログラムの間には、出演者が両地域の方言を交えて観客と談笑するなど観客と出演者が一体となった和やかで盛大なライブステージとなりました。

田中一村記念美術館企画事業

一村ジュニア展

平成16年9月17日から9月23日まで奄美の自然を描いた画家、田中一村の顕彰と奄美をテーマにした作品制作を通して自然や文化への認識を深めてもらおうと1999年から一村会主催で始まった同展の巡回展を開催しました。

今回は267点の出品があり180点を企画展示室で展示しました。

スケッチ展

開館3周年企画としてあったスケッチ会の作品展示を平成16年10月3日から10月24日まで企画展示室で行いました。

日本画家の大矢紀氏が講師を務め、島内外から参加した45名のうちの26点を展示しました。

参様展

平成16年11月21日から12月18日まで名瀬市の県立高校美術教諭3人の参様展を企画展示室で行いました。

鎧をテーマに制作活動に取り組む木下教諭は、ガジュマルの風景画など15点を展示しました。

本田教諭はCG、デジタル作品25点を展示、しおのと県体公式ポスターや開陽高校校章など手掛けた作品も展示しました。

岩元教諭は20～30歳代の県内美術教諭でつくる「トコロ展」の出品作品など彫刻14点を展示しました。

寺嶋家寄託作品 特別常設展

平成16年7月11日から始まった常設展では、山形市在住の寺嶋誠一様より当館に寄託いただいた衝立の作品を特別に展示しました。

これは、衝立の表に大輪の花と蝶が舞い飛ぶ華麗な「富貴図」、墨竹と岩に付着する蘭を描いた「竹と蘭」の作品で、一村21歳の作品です。

また、全国巡回展終了を記念して、同実行委員長を務めた大矢鞆音顧問が寺嶋家御夫妻を交えて公開座談会を行った。

一村に影響を受けた少年 屋嘉比ひろし展

平成17年1月2日から1月23日まで抜群の色彩感覚と計算された空間・構図の取り方など県立大島養護学校6年の屋嘉比寛くんの個展を企画展示室で行いました。

天性のセンスを感じさせるCG作品を中心に54点を展示。開館以来最年少の個展を開催しました。マスコミ等にも大きく取り上げられ大変な反響でした。

創作体験教室 人物画講座

平成17年11月29日・30日の2日間、二科会会員の西健吉先生を講師としてお招きして人物画講座を開催しました。

講師の説明後、デッサンを開始した受講生は油彩、水彩などそれぞれの描画材料を使い、西先生の助言を受けながら真剣な表情でキャンバスに向かっていました。

第3回 奄美を描く美術展

奄美の風物をテーマとし、全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ、奄美の文化に接する機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の発展に寄与することを目的として第3回奄美を描く美術展を平成17年2月20日から3月13日まで開催しました。

北は青森から南は鹿児島まで全国各地から出品者375名、作品521点の出品がありました。審査員からは作品のレベルが格段に上がり充実した展覧会になったとの講評をいただきました。

【ボランティアガイド奄美パーク応援隊】

ボランティアガイドスタッフ募集中

詳しくは事業課まで

ボランティアガイド「奄美パーク応援隊」を募集しています。

活動内容は

①展示案内ガイド
②手熟ガイド
③園芸サポーター
④奄美パークのイベント時におけるサポートなどです。

来園者の皆さまに奄美の魅力や観光ポイントなどを紹介・発信したいボランティアを随時募集しております。興味のある方は奄美パーク応援隊事務局までご連絡ください。

応援隊会員の声

名瀬市　安田裕三

「余計な話」有償と無償の違いはあるのか？

私にとって案内という仕事をしていて何時も心がけている事は詳しい解説ではなく「余計な話」です。一言に「余計な話」と言っても私のような案内を生業としている人間にとって非常に大事な話なのです。何故かと言うと、通常のありきたりなご説明や解説などをしていてもお客様はあんまり楽しんでくれないのです。そりゃ～詳しい話を聞くのが好きなお客様や、毅然とした態度で接する案内人が好きなお客様などお客様は千差万別ですが、やはりご案内させていただいていて一番受けるのは実体験を含む「余計な話」なのです。一つの事を正面からお話しするのではなく、あらゆる角度からお話していくのが案内人の腕の見せ所でもあります。例えば「何処から来島なされたのか？」とか、「奄美パークに来るのは何処を回ってきてからなのか？」とか、「何に興味を持っている方なのか？」とかいう情報をお客様との会話の中から収集し、基本としてお伝えしなければいけない事をその話に含めてお話しをしていくのです。そうする事によってお客様との距離感を縮めて、お客様へ「奄美パーク」や「奄美」への興味をかきたてていくのです。難しく書いていますが、要は自分の得意な世間話をすればいいのです（爆笑）この考え方は有償案内（生業）でも無償案内（応援隊）でも同じだと思っています。さて、今日も「余計な話」でもしながらお客様と一緒に楽しみましょうかね！

わきゃ島自慢

ワキャシマヌ、ヌセンキャ。（私たちの島の、若者たち）

（宇検村）

「長寿の島奄美」の中でも村の人口の内66歳以上の占める割合が38％と高齢化の進む宇検村ですが、〝シマ〟に住む若者たちは、いろんなことにチャレンジして〝シマ〟を楽しんでいます。

宇検村青年団連絡協議会（連青・益江福太郎会長・45名）は8年前からクリスマスの日に村内の小学校低学年以下の子供達を対象に「サンタが家にやって来た！」を行っています。各家庭から預かったプレゼントをサンタクロースに扮した青年団員が配って回ります。「サンタが来た－！」と大喜びする子、何が起きたかわからず大泣きする子、反応はそれぞれですが、毎年大好評です。しかし、各家庭に回るサンタさんがヒゲをはずし、勧められるビールを一杯・二杯。次の家でも一杯・二杯。全家庭を回りきるときには……？これも青年団の特権。宇検の子供達に〝夢〟を配っている若者達は、「飲まないとできない。」（私も経験あります）と言うことです。でも、飲んでばかりではありません。他の活動として、夏祭り時の舞台作り、駐車場整理、文化祭への参加、ボランティア活動。様々な場面で汗水流して頑張っています。皆さん応援してください。

わきや島自慢

歴史を刻む石垣とむちゃかな伝説（住用村）

住用村の市集落から広域林道（青久～嘉徳線）を車で約30分程行くと、周囲を石垣で囲まれた、なんとものどかな景観の青久集落がある。現在、老夫婦一世帯しか住んでいないが、牛を放牧し、自家用のミカンと野菜を作り生活している。

昭和20年代は70名あまりが住んでいたようで、奄美が本土に復帰前の琉球政府時代につくられた玉石垣が当時をしのばせる。高さ2・3m、周囲200mの石垣は、集落民や市集落から老若男女総出で積み上げ、人力だけで完成させた。

当時から、台風のたび青久海岸の潮先が民家の軒先までできていたため、防護堤として作られた。また、川沿い丘には集落を見守るように「むちゃかな之碑」がある。

この石碑は、島唄でも有名な「むちゃかな節」の歌詞にでてくる。

～今から約二百年前に瀬戸内生間の「うらとみ」は島一番の美人、役人の欲望を拒否、島流しにされ、喜界島でつかの間の幸せをつかみ、生まれた子「むちゃかな」は、母以上の美人。それに嫉妬した島の娘達は、アオサ取りに誘い海中に突き落とした。その遺体が流れ着き、青久の集落民によって手厚く葬られ、それ以来、旧九月九日には、墓地に詣で悲劇の娘「むちゃかな」の霊を慰めている。（伝説むちゃかな之碑から）～

昭和40年頃、瀬戸内町生間から3人の古老が青久を訪れて、遺骨を供しようとしたが、できずに墓で弔って「むちゃかな」を生間へ連れて行ったそうである。

今でも、どこからともなくお供え物をそえて礼拝に訪れるようである。ただ、昨年の台風で石垣の一部が崩れ、家の奥まで潮先がきてこれまでにない災害を受けた、青久の石垣とむちゃかなを守る老夫婦にとっては、あまりにも大きな傷跡を残した。

青久集落の全景，休日には時々釣り客が訪れ，放牧されている牛が見られる。➡

⬆ 「むちゃかな之碑」墓の横に平成4年に村が碑を建設。むちゃかな節で民謡日本一となった中野律紀さんも報告に訪れた。

⬆ 青久堤防工事に携わった集落民と隣の市集落民の記念撮影

てんじしつ TENJISITU

田中一村記念美術館常設展示室展示作品
「描かれたハマユウ　一村の夏展」と題して
平成17年６月16日㈭から９月20日㈫まで、
主に夏の彩りを表現した作品を展示しました。

常設展示室１

幼年期～青年期明治41年（1908）～昭和13年（1938）

大人顔負けの天才的な画才を現した９歳から10代にかけての色紙。

- 白梅　（色紙）　大正６年（1917年　9歳）
- 凌波仙士（色紙）　大正10年（1921年　13歳）
- 花菖蒲　（色紙）　大正14年（1925年　17歳）

米邨と名乗っていた頃の南画の作品。多くの作品が残っている。

- 牡丹図　（色紙）　昭和２年（1927年　19歳）
- ソテツとツツジ（軸装）　大正15年（1926年　18歳）
- 扁額（木）（額装）　昭和２年（1927年　19歳）
- 秋色①　（額装）　昭和20年代

千葉寺時代昭和13年（1938）～昭和33年（1958）

個人からの依頼で、約20点ほどの南画作品の模写を行っている。

作品には倣うという意味で「倣・・」と入れてあるが、確かな技量が感じ取れる作品。

- 倣蕪村④（軸装）昭和22年以降（1947年　39歳以降）
- 倣聾米④（軸装）昭和22年以降（1947年　39歳以降）

軍鶏師の注文に精魂込めて描いた襖絵

- 花と軍鶏（襖絵）　昭和28年（1953年　45歳）

30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然

- 田園夕景　（色紙）　昭和19年頃（1944年　36歳）
- 牛を引く農夫（色紙）　昭和19年頃（1944年　36歳）
- シャモ　（色紙）　昭和20年頃（1945年　37歳）
- 千葉寺・秋（色紙）　昭和23年頃（1948年　40歳）

常設展示室２

百姓と見まごうばかりの千葉寺の生活、身近な自然を描いた作品。

- カケス　（額装）　昭和30年頃（1955年　47歳）
- 千葉寺・牛が往く野（額装）昭和20年代
- 千葉寺・麦秋　（額装）　昭和20年代
- 千葉寺風景②（額装）　昭和20年代

九州・四国の旅　昭和30年（1955年）

旅先を描いた作品は明るく躍動感にあふれ、奄美行きのきっかけともなった。

- 由布風景　（色紙）　昭和30年（1955年　47歳）
- ハマユウとヒギリ（色紙）昭和30年（1955年　47歳）
- 鬼ヶ城黎明（色紙）　昭和30年（1955年　47歳）
- 足摺狂濤　（色紙）　昭和30年（1955年　47歳）

奄美の一村　昭和33年（1958年）～昭和52年（1977年）

「奄美時代」の色紙。

- 奄美客舎　（色紙）　昭和30年代
- 海辺　（色紙）　昭和30年頃
- 魚樵對問②（色紙）　昭和35年頃
- 花と蝶　（色紙）　昭和40年
- ハマユウ　（色紙）　昭和50年頃
- 菊花図　（額装）　昭和30年頃

緻密な写生を繰り返した「素描」。

- 素描・魚⑥　・素描・エビ①　・素描・エビ②
- 素描・トラフズク　・保家祖父母肖像

常設展示室３

奄美の自然を描き、一村芸術が華開いた作品の数々。

- 岩上のアカヒゲ　（額装）昭和34年（51歳）
- 奄美の杜⑩～ビロウとコンロンカ　（額装）昭和37,8年
- 奄美の杜⑧～ビロウとブーゲンビレア　（額装）昭和40年
- 奄美の杜②～サクラツツジとオオタニワタリ　（額装）昭和40年代：複製

ハマユウが絵の中に登場する３点。

- 奄美の杜⑨～ビロウとアカショウビン（額装）昭和37年（54歳）
- 奄美の杜⑤～ガジュマルにトラフズク　（額装）昭和40年代
- 奄美の杜③～ビロウとハマユウ　（額装）昭和40年代

一村が借りていた家の家主が、家を新築した機会に送られた作品。

- ソテツ残照（額装）　昭和40年代

一村を語るうえで欠かせない重要な作品。個人所有のため、複製を展示。

- 崖の上のアカショウビン（額装）昭和40年代（53歳）：複製
- ダチュラとアカショウビン（額装）昭和42年代（55歳）：複製
- アダンの木　（額装）昭和47・8年（64・5歳）：複製

奄美パークから

お知らせ

様々な企画満載です。

新緑・紅葉スケッチ展 開催中

田中一村記念美術館では、第1回新緑～紅葉スケッチコンクールを開催しております。終日、時を忘れて、絵に親しんでみませんか。

応募方法については、ポスターのとおりとしておりますので、気軽に申込んでくださるようお願いします。

奄美の郷ライブステージ 出演者（団体）募集

奄美パークでは、地元の方々の島唄や舞踊等の発表の場として、主に毎月第3日曜日にイベント広場を開放し、「奄美の郷ライブステージ」としてイベントを開催しております。

もちろん、使用料は無料です。日頃の練習の成果を試す絶好の機会です。

皆様の出演をお待ちしております。出演を希望される方は、奄美パークまで御連絡くださるようお願いいたします。

奄美パーク
田中一村
記念美術館

第1回 新緑～紅葉 スケッチコンクール

亜熱帯特有の自然に囲まれ光溢れる奄美パークで思いっきり絵を描きませんか？！

参加・応募期間

4月24日(日) ～ 12月28日(水)

- 描く場所　奄美パーク敷地内
- 題材　○ 奄美パークや田中一村記念美術館などの建物や，敷地内の植物や生き物。またパークから見える風景など，何でもかまいません。
  ○ 敷地内で見かけた人物も入れてかまいません。
- 準備するもの
  ○ 参加者全員に‘八つ切り’サイズの画用紙を無料で提供します。
  ○ 絵の具類，水入れ，筆，パレットなど。
  （画板は，４０枚は田中一村記念美術館に準備してあります。）
  （絵の具に関しても一部貸出をしております。御相談下さい。）

※ 日差しが強いので，必要に応じて日除け（帽子等），敷物，雨具等戸外で描く事を考え準備して下さい。

- 参加の条件　年齢は問いません。どなたでも御参加ください。
- 申込方法　参加当日，田中一村記念美術館の受付に直接お申し込みください。
- 参加料　無料
- 審査と表彰
  ○ 審査を行い，入選の他，特別賞を２１点選び，賞状・楯・記念品を贈ります。
- 展　示
  ○ 期間　：　２００６年 ２月５日（日）～ ２月２６日（日）
  ○ 場所　：　田中一村記念美術館企画展示室
- その他
  ○ 作品を持ち帰り，家や学校で仕上げてから郵送などで提出してもかまいません。
- 作品の返却は原則として取りに来て頂くか（２月２７日以降）学校を通じて返却します。郵送を希望する場合は着払いとなります。（提出時に確認します）
- 問い合わせ先
  ○ 〒894-0504　鹿児島県大島郡笠利町節田1834
  鹿児島県奄美パーク田中一村記念美術館
  Tel 0997-55-2635　Fax 0997-55-2613　http://www.amamipark.com/

奄美パーク周辺地図

●開園時間／9：00～18：00（7月・8月は9：00～19：00）
入園は、閉園時間の30分前までです。

●休　園　日／水曜日（祝日の場合は翌日）（4月29日～5月5日、7月21日～8月31日は開園）
年末年始（12月30日～1月1日）

●施設観覧料／（奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料）
大人400円、高校・大学生280円、小・中学生200円、幼児(小学生未満)無料

●お問い合せ　奄美パーク

鹿児島県
〒894-0504　鹿児島県大島郡笠利町節田1834
〈奄美パークホームページ〉http://www.amamipark.com/

〈奄美の郷〉
Tel. 0997-55-2333　Fax. 0997-55-2612
〈田中一村記念美術館〉
Tel. 0997-55-2635　Fax. 0997-55-2613